



# 学校だより

横浜市立六つ川台小学校

平成28年9月30日

10 月

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawadai/>

## 前向きな考えをもとう

副校長 佐藤 栄

この夏は、オリンピックで日本中が盛り上がりました。日本選手が史上最多のメダルを獲得したことも驚きでした。続いてこの秋9月はパラリンピックが開催されました。リオのパラリンピックで、日本選手の金メダル獲得はありませんでしたが、前回のロンドンパラリンピックを上回る24個のメダルを獲得しました。

パラリンピックの選手一人ひとりにドラマがあります。ここでは、女子400メートルで銅メダルを獲得した辻沙絵選手を紹介します。辻選手は中学の時にハンドボールの強豪校に在学し左手一本ながらも2年生の時にレギュラーを獲得しています。

高校ではハンドボールの強豪校へ通うため北海道から茨城の高校へ留学しています。国体に出場するほどの実績を残しています。大学2年の時、怪我で苦しむ辻選手を見て大学の先生が陸上への転向を勧めます。辻選手は、今まで健常者と一緒にプレーしてきたのに何でという思いが頭をよぎったといいます。でも、他の競技も知っておいた方がプラスになると前向きに考え、陸上を本格的にやることを決断します。この決断した時がリオパラリンピックの1年半前でした。はじめは悩んで、しばらくはハンドボールと陸上を掛け持ちしていたそうです。左ひざの靭帯を痛めてリハビリを3年近く続けてそこから怒濤の日本新記録更新を成し遂げて、世界選手権出場、リオパラリンピックでご存知のような結果を出したのです。

辻選手は、幼いころ右腕が生えてこないと分かった時、ものすごいショックを受けましたが、「できないことを減らしていこう」と前向きに考えたそうです。ハンドボールを胸でキャッチするので痛い思いをして、泣きながら何度も何度も練習を重ねていきました。練習と努力によって、胸以外でもボールをキャッチできるようになったそうです。

ハンドボールから陸上への転向は、今までの努力は何だったのだろうという気持ちはあったことでしょう。しかし、ハンドボールで鍛えた体力が400メートルの走りを支えました。

「前向きな考え方」をすることと「今までの努力は無駄にならない」という大切なことを辻選手は教えてくれていると思います。

さて、10月7日に前期終業日に「あゆみ」を渡します。1年生にとっては、初めての「あゆみ」です。全ての子どもたちにとって大きな励ましの一つになることを願っております。「学習はどうだったか、生活はどうだったかを振り返り、自分のよいところは何だろうか」を見つけること、「これから何を頑張っていくのか」を見つけてください。全てを前向きに考えて「あゆみ」を見ていただき、保護者の皆さんの温かい励ましでお子さんに声を掛けていただくと幸いです。すぐ後期が始まります。後期もどうぞよろしく申し上げます。